

岩手県議会議員 小野 共

岩手県議会通信

第 5 号



6月26日、知事室にて。知事へ「本音で語ろう県議会」開催の報告（隣は佐々木博県議会議長）

小野共です。いつもありがとうございます。この3月から5月にかけて県沿岸広域振興局で行った水産部と県土整備部発注の設計業務委託の入札業務に、積算誤りが発生していたことが発覚しました。農林水産部で発注した入札のうち12件と県土整備部で発注した入札のうち3件に最低制限価格の積算ミスがありました。振興局は、最低制限価格（この価格以下の価格札を入れた業者は失格となる）を本来の最低制限価格より高く見積もっていました。最低制限価格の積算ミスがあった15件の入札のうち2件は積算ミスでも落札業者は替わりませんでした。15件の内13件は、積算ミスにより、本来失格となる業者が落札し、本来の落札業者が落札出来ていませんでした。この積算ミス13件の落札業者は9社でした。

県は直ちにこの9社と連絡を取り、契約を、業務を直ちに停止しそれまでかかった費用を県が払うという変更契約を結ぶよう申し入れをしました。県の全くの自己都合による設計業務契約の変更です。その後、県は7月にこれらの事案の入札業務を改めて入札し、契約をしました。当然、この積算ミスにより、沿岸広域振興局管内の公共工事は遅れたことになります。迷惑をかけた9社を含む関係業者の皆様には本当に申し訳ない事態となりました。

県は9月に、これら積算ミスに関係した職員20名を「訓告」と「嚴重注意」で処分しました。

震災以降、被災3県（岩手、宮城、福島）の公共工事の数は激増しており、特に我が岩手の公共工事の数は5億円以上の県議会の承認が必要な工事だけでも例年の30倍ほどになっております。理屈から言えば、県の入札担当者も単純に今までの30倍ほどの人数が必要との計算になります。現在の職員数でこれほど膨大な数の業務をこなすのは不可能です。間違いなく県を含む市町村の自治体の職員の数が不足しております。今回の事件により県職員は萎縮しております。これでは「復興のスピードを上げる」という被災地の最大の目的に対し本末転倒の事態となります。早急に自治体職員の人数を増やす必要があります。自治体職員の増員は私も東日本大震災特別委員会などで何度か取り上げております。これからも全国知事会や市長会、町村長会に強く働きかけていきます。



釜石港湾事務所にて湾口防波堤の整備状況について説明を受ける

災害公営住宅の進捗状況について

昨年平成23年の県議会議員選挙において、私は次の4年（平成27年まで）で釜石・大槌でやらなくてはいけない事が大きく4つある、と述べました。○災害廃棄物（ガレキ）の処理 ○災害公営住宅の早期建設 ○漁業、水産業の復旧 ○雇用の確保です。

9月27日、県では新たな「社会資本の復旧・復興のロードマップ」を公表し、その中で、岩手沿岸市町村に作る災害公営住宅は5,601戸であること、県はそのうち3,231戸を建設すること、残りの2,379戸は市町村が建設すること、の方針を出しました。釜石・大槌に出来る全ての公営住宅は、現時点で平成26年以内の完成予定です。

現時点では釜石市内に1,049戸、大槌町内に980戸建設される予定なので、県内に出来る公営住宅の4割弱が釜石と大槌に出来ることになります。

県内に出来る公営住宅で最も早く完成する予定なのは、野田村に出来る住宅で来年（平成25年）3月の完成予定で、次に早いのが釜石市野田（平成25年6月完成）、大槌町吉里吉里（平成25年6月）、釜石市平田（平成25年10月）の予定です。

釜石・大槌に出来る公営住宅で来年度（平成25年度）完成の公営住宅は下記の通りです。

| 釜石市（平成25年度完成予定） | | | 大槌町（平成25年度完成予定） | | |
|-----------------|--------|------------|-----------------|------|-----------|
| 県営 | 平田 | RC造7階建126戸 | 県営 | 吉里吉里 | RC造5階34戸 |
| 県営 | 野田 | RC造5階建32戸 | 県営 | 柾内 | RC造5階90戸 |
| 県営 | 鶴住居 | RC造5階40戸 | 県営 | 屋敷前 | RC造6階150戸 |
| 市営 | 天神町 | RC造40戸 | 町営 | 大ケ口 | 木造70戸 |
| 市営 | 箱崎 | 木造40戸 | 町営 | 屋敷前 | 木造21戸 |
| 市営 | 佐須 | 木造10戸 | 町営 | 大ケ口 | 木造50戸 |
| 市営 | 白浜(箱崎) | 木造10戸 | 町営 | 柾内 | 木造13戸 |
| 市営 | 花露辺 | RC造15戸 | | | |
| 市営 | 大石 | 木造4戸 | | | |
| 市営 | 本郷 | RC造24戸 | | | |



釜石花露辺地区にて防災集団移転促進事業視察



釜石市役所にて復興状況視察



大槌町赤浜地区にて

震災後の被災地の人口減少について

震災後、この1年の被災沿岸12市町村の人口の推移を調べてみました。平成23年3月1日（震災前）の人口と1年後の平成24年4月1日の人口を比べ、その増減数と割合（増減率）が下記の通りです。

| 市町村名 | 平成24年4月 | 平成23年3月 | 増減数 | 増減率 |
|-------|-----------|-----------|---------|---------|
| 陸前高田市 | 19,849 | 23,221 | -3,372 | -14.50% |
| 大船渡市 | 38,874 | 40,579 | -1,705 | -4.20% |
| 釜石市 | 36,951 | 39,399 | -2,448 | -6.20% |
| 大槌町 | 12,392 | 15,222 | -2,830 | -18.60% |
| 山田町 | 16,578 | 18,506 | -1,928 | -10.40% |
| 宮古市 | 57,484 | 59,229 | -1,745 | -2.90% |
| 岩泉町 | 10,416 | 10,708 | -292 | -2.70% |
| 田野畑村 | 3,701 | 3,838 | -137 | -3.60% |
| 普代村 | 2,994 | 3,065 | -71 | -2.30% |
| 野田村 | 4,413 | 4,606 | -193 | -4.20% |
| 久慈市 | 36,202 | 36,789 | -587 | -1.60% |
| 洋野町 | 17,395 | 17,775 | -380 | -2.10% |
| 沿岸計 | 257,249 | 272,937 | -15,688 | -5.70% |
| 内陸計 | 1,047,640 | 1,053,706 | -6,066 | -0.60% |
| 県全体 | 1,304,889 | 1,326,643 | -21,754 | -1.60% |

沿岸12市町村で人口がこの1年で15,688人減少しております。人口減少の大きい市町村は陸前高田市（-3,372人）、大槌町（-2,830人）、釜石市（-2,448人）、山田町（-1,928人）で、トップ3に大槌と釜石が入っております。

しかし人口減少の絶対数ではなく、増減率（減少の総人口に対する割合）で見ると被災地12市町村の中で減少の割合が最も大きいのは大槌町です。この人口減少は自然減少（死亡）だけでなく社会減少（他地域への移動）も含んだ数字ですが、実に大槌では人口の2割弱が失われております。

震災前には大槌町では、1年間におよそ200人台のペースで人口が減少し、釜石では震災前は1年間におよそ700人台のペースで人口が減少してきました。それがこの1年で大槌では2,830人、釜石では2,448人の人口がいなくなりました。これは驚くべき数字です。自治体がこれから行政を行う上で何か不具合が出てこないか注意深く見守る必要があります。

「本音で語ろう県議会」開催結果を知事に報告（第1面の写真）

岩手県議会には「広聴広報会議」という、県議会の広聴広報活動（県民の意見を広く聞き、県民に議会活動の報告をすること）について協議する組織があります。岩手県議会が定める「岩手県議会における協議等の場の運営等に関する要綱」に、広聴広報会議は「六人で構成する」との記載があり、この要綱を基に広聴広報会議が交渉団体会派（民主、自民、希望未来フォーラム、地域政党いわて）選出の議員6人で構成され、私が座長をしております。

岩手県議会では平成20年に議会基本条例を制定し、この条例の第5条に「県民参加の機会の充実を図る」ため、「議会と県民との意見交換の場の設置」をすると記載があります。この「意見交換会の場」が「本音で語ろう県議会」であり、この意見交換会が広聴広報会議の所管となりました。

「本音で語ろう県議会」はこの後、平成21年11月に第1回の開催をし、基本的に年に2回開催しております。会の参加県議はその会場を地元としない県議7人で構成され、会の冒頭に県の予算又は決算の報告をし、私が座長になった平成23年以降は復興への県議会の取組を併せて説明し、その後、意見交換会（質疑応答）となります。時間は2時間を目安としております。

過去の開催地と参加者の人数は下記の通りです。

- 第1回（平成21年11月）：
（会場：盛岡、奥州、釜石、久慈）：参加者92名
- 第2回（平成22年4月）：
（会場：八幡平、北上、宮古、二戸）：参加者70名
- 第3回（平成22年11月）：
（会場：矢巾、一関、大船渡、洋野）：参加者114名
- 第4回（平成23年11月）：
（会場：雫石、遠野、陸前高田、野田）：参加者134名
- 第5回（平成24年4月）：
（会場：岩手、平泉、岩泉、軽米）：参加者154名
（※平成23年4月は東日本大震災の為、開催を中止しております。）

全5回の開催で合計20の市町村で会を開催しました。現在、岩手には33の市町村があるので、あと13の会場での開催が残っております。

6月26日、佐々木博議長と知事に第5回の開催の報告をして来ました。（見出しの写真）

上記の通り、参加者の人数は、第2回を除き毎年増加しております。各会場での質疑はやはり、その地元に関するものが多くな

ております。県内の他地域と岩手全体の課題をより深く知る為に、この「本音で語ろう県議会」は全ての議員にとって本当に良い機会となっております。「質問された時、もし答えられなかったら」という不安は、議員にとって勉強する最大の動機の一つです。質問されて初めてその問題の存在に気づくことも多々あります。

この1年以内に大槌で「本音で語ろう県議会」を開催します。その際には是非来て下さい。



平成24年4月26日、本音で語ろう県議会、岩泉会場にて

「復興に関する意識調査」について

県では、今年の2月に震災の復興状況における県民の意識調査の為、「岩手県の東日本大震災津波からの復興に関する意識調査」をしました。県民5,000人を無作為に選びアンケートを行うもので、今回2月に行ったアンケートに回答した方は3,590人で、5,000人のうち7割が回答しました。

岩手全体の復旧の実感を聞く質問で、回答者の約6割（59.6%）が岩手の復旧について「遅れていると感じる」又は「やや遅れていると感じる」と答えました。県民の過半数は遅れていると感じていることがわかりました。

6割もの県民が「遅れている」と感じる最大の理由は、今、行政は何をやっているのか、が見えないことです。「今、これこれをやっている最中で、これこれの理由により進まず、おそらく何週間後にはこれこの状態になります」、という行政からの情報が圧倒的に不足しています。

「市内、町内のまちづくりの進捗状況について」のような資料を2ヶ月か3ヶ月に一度くらい広報すべきです。被災市町村の「復興」を担当する部局が他部局から情報を集め整理し進捗状況についての情報を公開すべきです。

県の「復興に関する意識調査」の中で、県の復興計画の主な施策29項目のうち、重要度の高いものを聞くという質問がありま



久慈防災センターにて H24年5月31日
県工整備常任委員会視察



県立釜石病院にて
放射線治療器リニアックを視察



岩手医科大学矢巾キャンパスにて
地域医療確保対策特別委員会委員長挨拶



三陸北縦貫道尾肝要トンネル視察



宮古漁業協同組合にて清願の聞き取り調査

した。上位 10 位までが次のとおりです。

- 1 位 医療機関や社会福祉施設などの機能回復
- 2 位 被災した事業所の復興や新規事業書の進出による雇用の確保
- 3 位 離職者の再就職への取組
- 4 位 学校施設等の復旧
- 5 位 安心して暮らせる住居・宅地の供給
- 6 位 漁港の復旧、整備
- 7 位 漁船、養殖施設の復旧
- 8 位 被災市町村の行政機能の回復
- 9 位 道路網の整備
- 10 位 避難経路の整備

「防潮堤と防波堤の整備」は 29 項目中 15 位でした。釜石と大槌には 4 つの湾があり、それぞれの湾の防潮堤の高さは、政府の中央防災会議の基本的考え方に基づき農林水産省と国土交通省と

県が相談し、大槌湾 14.5 メートル、両石湾 12 メートル、釜石湾 6.1 メートル、唐丹湾 14.5 メートルと設定されました。

釜石市・大槌町の全ての地域はまちづくりを、防災集団移転促進事業、土地区画整理事業、漁業集落防災機能強化事業の三つの事業のどれかを使うか併用して計画しています。そしてこの三つの事業は全て上記の防潮堤の高さを前提に計画されております。その防潮堤が出来た時の浸水深が 2 メートルを超える地域は原則として居住地域とはなりません。加えて、この震災で釜石・大槌全ての湾の防波堤、防潮堤が被害を受け、十分に機能している堤防はありません。「来週、若しくは明日、津波が来たら、どのように防ぐのか」と上記三事業における前提を考えた時、岩手県沿岸被災地の社会資本の優先順位（重要度）の最も高いものは、「防波堤、防潮堤の整備」なはずで



小野共プロフィール

昭和 44 年 2 月 21 日生まれ：43 歳
釜石市立唐丹小学校卒業、釜石市立唐丹中学校卒業、岩手県立釜石南高校卒業、ハイデルバーグ大学（オハイオ州）卒業、サフォーク大学大学院（マサチューセッツ州）修士課程（MBA）修了。

カメイ株式会社本社勤務後、（有）小野惣商店勤務。
平成 19 年 8 月の釜石市議会議員選挙初当選（1 期目）
平成 22 年 8 月の岩手県議会議員選挙初当選（1 期目）
平成 23 年 9 月の岩手県議会議員選挙当選（2 期目）

現在：県土整備常任委員会副委員長 地域医療確保対策特別委員会委員長 広聴広報会議座長 議会運営委員 東日本大震災津波特別委員会世話人 復興スクラム議連幹事長 民主党岩手県連政策調査会（政調）副会長 釜石高校ラグビー部 OB 会会長

◆小野共への意見・提言募集◆

小野共への意見、質問を募集しております。自分のこれからの活動の参考にしたいと思えます。電話、メール、手紙など、どのような手段でも宜しく御願ひ致します。

小野共：釜石市中妻町 1 丁目 21 番 10 号
TEL：55-5112 FAX：55-5113 メールアドレス：onokyo@live.jp

あしがき

WWF（世界自然保護基金）という世界最大規模の自然環境保護団体があります。この団体が海洋漁業の混獲（誤って魚以外の生物、野鳥、ウミガメ、などを捕獲してしまうこと）を減らす漁具のコンテストを 2 年に 1 度づつ行っており、昨年 2011 年の最優秀賞に日本人で初めて、両石の山崎一弘さんが受賞しました。日本人で初めての受賞です。

準優勝はハワイ大学とサンディエゴの大学の合同チームでウミガメの混獲を減らす為に、刺し網にライトをあてる漁具を開発したチームで、両石の山崎さんはこれら大学の研究チームを抑えての最優秀賞でした。

話をする機会があり、聞いてみると、合理的に物事を考え整理する方で、被災地に何が足りなくてその理由は何かもきちんと語ってくれました。素晴らしい方です。

寒くなってきました。かぜなどひかぬようご自愛下さい。